JSP ニュース

2009年 春

No.65

証券コード：7942

代表取締役社長　**井 上　六 郎**

JSPニュース　No.65　Contents

社長メッセージ …… 01
特集　JSPアジア事業 …… 03
新製品紹介 …… 05
株主優待制度／配当実績 …… 08
JSPカレンダー …… 09
会社情報／アンケートのお願い …… 13
表紙の写真 …… 14

製造業の原点に立ち戻り、市
新たな成長基盤の確立に努め

株主の皆様へ

株主の皆様におかれましては、益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。平成20年度は、当社中期3ヶ年計画「REMAKE21」の最終年度に当たります。先ずこの3年間の事業の動きを振り返り、20年度の実績予想を申し述べたく存じます。中期計画開始前から既に上昇の動きがあった原油・原燃料価格は、アジアや中国の急速な経済成長と共に連続的な上昇を続け、平成20年1月には100ドル／バレルの水準を突破、年央には150ドル／バレルに迫る等、これまで経験したことのない領域に入りました。この間、原料・燃料価格上昇の影響を受けた製品の価格是正を懸命に実施しましたが、時間遅れを取り戻し得ず売上面では計画を上回ったものの収益的には中期計画2年度、3年度と計画数値からの乖離が大きくなり、目標未達成となりましたことをお詫び申し上げます。

平成20年度予算との対比に於いても、前述の大幅な原料・燃料価格上昇を製品価格是正で吸収し得ず年度初頭より厳しい事業環境に曝され、加えて昨年秋に噴出顕在化したサブプライム問題に端を発する全世界的金融危機と世界同時不況により、経営事業環境は更に厳しさを増しました。一方で高騰を続けてきた原油・燃料価格は沈静化し、景気悪化に伴う需要減少と収益悪化を一部緩和する結果となりました。当社事業は売

場ニーズにマッチした事業運営により、てまいります。

上面では予算に近い実績を残す見込みながら、収益面では大幅な予算未達を余儀なくされ、重ねて深くお詫び申し上げます。

全般には昨年秋からの景気低迷下で厳しい事業環境下にあります。自動車・IT機器関連市場向けの当社製品は程度の差はあれ需要が落ち込んでおりますが、日常の生活に欠かせない製品市場に直結した製品群は相対的に影響は少ないともいえ、事業運営によっては収益支えの柱になり得ましょう。

国内事業は、これら日常生活に直結した製品群比率が高く比較的健闘していると考えております。しかし、自動車・IT機器包装向け市場が主体であるEPP国内事業等はこの度の景気落ち込みの影響に直面し、厳しい状況下にあります。生産技術の改善、諸経費の大幅な削減を実施し、収益回復に努めます。EPS事業は、他社事業の譲り受け効果現出の途上にありますが、今後早期に所定の作業を完遂し収益改善を図って参ります。

海外事業は自動車・IT機器包材用市場向けのEPP事業が主体で、この度の世界同時不況の影響に直面しておりますが、地域毎にそれぞれの理由で国内より好ましい事業環境にあります。

欧・米では、原料高騰の時期、単価是正の速度が遅く収益的に厳しかったものの、原燃料沈静化により改善の方向にあることと、自動車の軽量化が切望される中でリアシート芯材等新規採用部位が拡がっております。

アジアでは中国事業が相対的に需要の落ち込みは小さく、また新規採用の動きも続いております。また韓国は需要落ち込みは大きいものの徹底したコスト削減による収益支えを実施しております。台湾、シンガポールはアジア地域の中で最も厳しい環境下にあります。経費削減等改善策を進めております。

以上の状況下で今期の当社連結業績は、売上高は中期計画、予算をやや下回る領域にあるものの、収益面では双方の数値を大幅に下回ると予測せざるを得ません。

来期は特に、現在も引き続き継続する世界・国内不況動向の見通しが極めて困難であり、かつ沈静化した原料・燃料の動きも予断を許さず、従来に増して厳しい環境が続くと覚悟しております。

製造業の原点に立ち戻り、状況に応じた製品価格是正、生産性の更なる向上、コスト低減を続け、新製品や新事業開発育成を進めるなど最大限の努力を行い、景気回復に備える所存であります。

今後とも株主の皆様のご理解とご支援ご鞭撻をお願い申しあげご報告ご挨拶といたします。

平成21年４月

井上六郎

JSP　アジア事業

海外事業紹介（アジア）

中国を中心として発展著しいアジアですが、1990年代前半に将来の中国市場を見据えた戦略として、ピーブロックの拡販を目指し韓国、台湾、シンガポールに進出しました。2002年には製造拠点として中国・無錫に、更に2007年には華南地区の東莞に進出したわけですが、それまで中国向けの輸出基地だったシンガポールはタイ、マレーシア、インド方面等の需要開拓に力を入れています。

KOSPA株式會社（韓国）

――――――自動車用途　50%、包材用途　50%

先ず韓国ですが1991年に当社と愛敬グループ50:50の出資比率で合弁会社KOSPA株式會社を発足させました。この社名はJSPとKOREAを組み合わせて決めたものです。工場はソウル市の南、陰城郡に新工場を建設しました。韓国自動車メーカー向けバンパーコアの供給が軌道に乗るとともに、経営は安定しました。ビーズ販売と成形品販売がバランスよく両立して小粒ながら、高収益の優良会社に成長しています。2006年には、需要増に備え、釜山の北西に位置する金泉に第二工場を取得しました。国内及び海外向け自動車の部品およびその成形用発泡ビーズを中心に製品を供給しています。現代自動車の海外現地生産移行により、その国内需要は減少していますが、海外の現代自動車向の納入はこれまで同様JSPの海外グループ会社が行なっています。

台寶樹脂化工股份有限公司（台湾）
――――――包材用途　85%、自動車用途　15%

1992年に小規模の成形工場を新竹縣湖口郷に建設し、包材用途を中心として生産販売体制を構築しました。当初はその需要の伸びが鈍く低迷しておりましたが、ようやく市場開拓の見通しがたち、2001年には新竹縣新豊郷地区にビーズ発泡から成形の一貫生産工場を竣工しました。液晶パネル等の包材用途の需要が大きく伸び収益に貢献しておりますが、その需要動向に大きく影響されます。

KOSPA 株式會社（韓国）

JSPフォームプロダクツ（シンガポール）
――――――包材用途　60%、自動車用途　40%

1995年にシンガポールにJSPフォームプロダクツ（JSP Foam Products）を100%子会社として設立し、東南アジアおよびオセアニア地域に対するビーズ供給地点と位置付けました。工場はシンガポールジュロン工業団地にあり、1996年に竣工、ピーブロックビーズの生産を開始しました。当時から将来の中国市場はそのスケールにおいて最重要視しておりましたが、直接進出は時期尚早との判断で、シンガポールより供給しておりました。中国（無錫、東莞）での現地生産化により生産数量は減りましたが、タイ、マレーシア、インド方面を中心に、各種用途の需要開拓に注力しています。

台寶樹脂化工股份有限公司（台湾）

中国（既報につき省略）
――――――包材用途　60%、自動車用途　40%

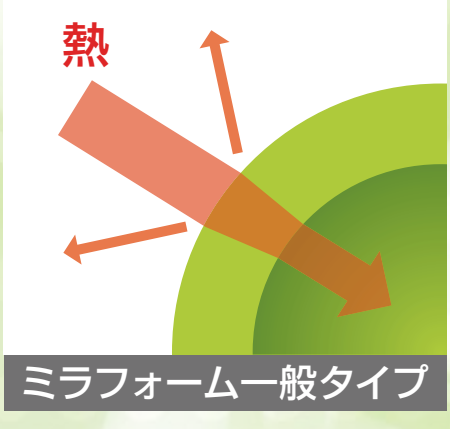
2003年　中国現地法人、杰斯比塑料（無錫）有限公司の新工場竣工
2008年　中国現地法人、杰斯比塑料（東莞）有限公司の新工場竣工

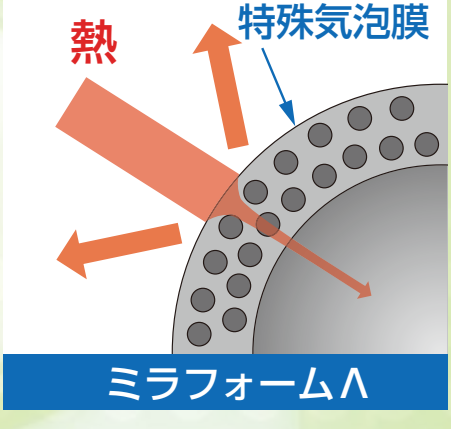
JSP フォームプロダクツ（シンガポール）

ミラフォームΛ（ラムダ）

「ミラフォームΛ（ラムダ）」はJSPがこれまで培ったプラスチック発泡技術を駆使して開発した高性能・新次世代型断熱材です。
「ミラフォーム」に特殊技術を加えることで、今まで押出法ポリスチレンフォームでは限界とされていた断熱性能をさらにレベルアップすることに成功しました。
住宅の高性能化が推進される中、画期的断熱材として期待が寄せられています。

気泡膜が輻射熱を抑制





ミラフォームΛ（ラムダ）は、気泡膜の新技術による輻射効果拡大を中心に、従来のミラフォームより約3割の断熱性アップを実現することが出来ました。

超高性能な断熱性

熱伝導率0.022W/m·K(23℃)を実現。
吸水性が低く安定した性能を発揮します。

高断熱のメカニズム

気泡膜の新技術による
輻射熱の抑制・ガスバリア性UP

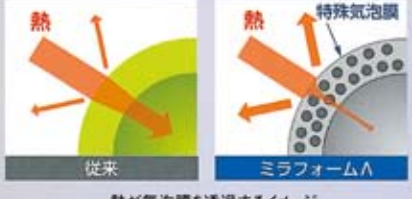
＋

気泡形状による
熱伝導の抑制効果

↓

超高断熱化の実現

ミラフォームΛ(ラムダ)の気泡写真



熱が気泡膜を透過するイメージ

環境・健康・安全対策

ノンフロン・ノンホルムアルデヒド・4VOC基準に適合。

優れた機械物性

ミラフォーム同様 曲げ強度(靱性)に高い性能を発揮。

▶規格

厚さ(mm)	25・30・40・50
幅(mm)	910
長さ(mm)	1820
表面状態・色	カットボード・シルバー

【永久帯電防止シリーズ】

＜無架橋ポリエチレン板状発泡体＞

ミラスペック®-SS

（MIRA-SPC）

特　長

● 優れた特長を有する新しい発泡ボード ●

1．高柔軟性（独自のモチモチ感）
2．耐寒性（−30℃程度でも割れにくい）
3．表面平滑性
4．緩衝性
5．耐摩耗性
6．永久帯電防止（$10^{11\sim13}\Omega$）
7．リサイクル性＆クリーン
8．軽量

■ミラスペックとは・・・・・・・・・・・・・・・・

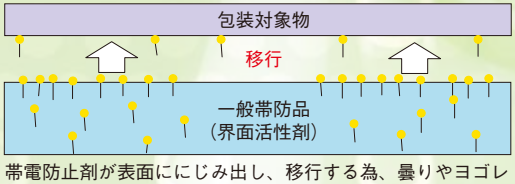
ポリエチレン樹脂を低・中発泡させた板状シートで、発泡倍率の違いにより、硬さや剛性、緩衝性能などの特長を有したバリエーション豊富な製品シリーズです。

■ミラスペックSSとは・・・・・・・・・・・・・・

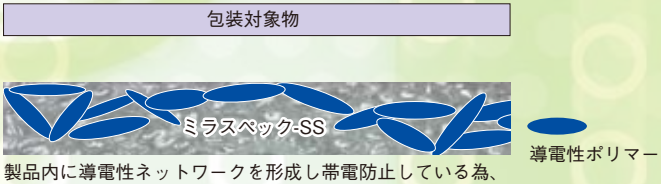
ミラスペックシリーズのバリエーションの1つで、滑らかな風合いの表面層と、独自の柔軟性・緩衝性を持つ発泡層を有したポリエチレン発泡板状素材です。

■永久帯電防止機能とは・・・・・・・・・・・・・・

輸送途中などにおける環境下で、摩擦により発生する静電気を防ぐ機能。これによりゴミやホコリの付着を防ぎます。また、当社は独自に帯電防止剤をポリマー化することに成功し、添加剤のにじみ出しの心配もなく、かつ帯電防止機能を長期間持続させることが可能となりました。



帯電防止剤が表面ににじみ出し、移行する為、曇りやヨゴレが発生する原因となります。



製品内に導電性ネットワークを形成し帯電防止している為、にじみ出る添加剤がなく移行がありません。

株主優待制度／配当実績

■ 株主優待制度

<デザイン見本>

■ 内容

(1)対象株主様

毎年3月31日現在の株主名簿および実質株主名簿に記載または登録された1単元(100株)以上を保有されている株主様

(2)優待の内容

一律3,000円相当の、社会貢献寄附金付オリジナルクオカードを贈呈します。

(株主様は3,000円全額ご使用いただけます。)

(3)贈呈の次期

毎年の株主総会終了後に発送予定

■ 社会貢献寄附金「緑の募金」について

1995年に制定された「緑の募金による森林整備等の推進に関する法律」に基づき、(社)国土緑化推進機構及び各都道府県緑化推進委員会が行っている募金です。集められた寄附金は、森林整備・緑化推進事業・森林に関わる人づくりなどに活用されています。

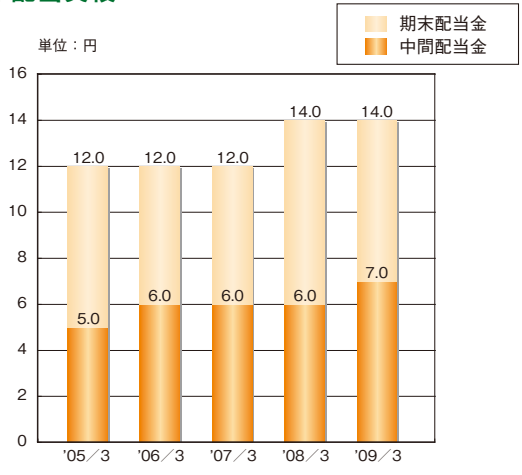
■ 株主還元方針

当社は、株主への利益還元を重要な政策として位置付けております。利益の配分につきましては、安定した配当を基本とした上、企業体質の強化と将来の事業展開に必要な内部留保資金の充実などを勘案し、総合的に決定する方針です。

内部留保金については、財務体質の強化とともに、今後の新製品・新技術への研究開発投資や新規事業展開のための設備投資に充当してまいります。

なお、剰余金の配当は、中間および期末配当の年2回を基本的な方針としており、2009年3月期の1株当たりの配当は、中間配当7円、期末配当7円(予定)の計14円を予定しております。

■ 配当実績



2008
12

新製品「ミラフォームΛ（ラムダ）」を販売開始

当社がこれまで培ったプラスチック発泡技術を駆使して開発した高性能・新次世代型断熱材「ミラフォームΛ（ラムダ）」を上市しました。

「自己株式の取得状況に関するお知らせ」を発表

12月9日、去る10月30日に発表した「自己株式取得」について、その実施状況を発表いたしました。 ＜右の表参照＞

「知って得する株主優待2009年版」および「NETーIR」に掲載

12月10日、野村インベスター・リレーションズ株式会社が発行・運用する「知って得する株主優待2009年版（冊子）」及び「NETーIR（Web）」に当社紹介記事が掲載されました。

「エコプロダクツ2008」開催

当社社長の井上が会長を務める発泡スチレンシート工業会（PSP工業会）と、EPSカンパニーが会員となっている発泡スチロール再資源化協会（JEPSRA）が、12月11日から13日までの3日間、東京・有明の東京ビッグサイトにおいて開催された「エコプロダクツ2008」に協賛参加出展いたしました。期間中、多くの方が訪れ盛況に終了いたしました。

発泡スチレンシート工業会ブース

発泡スチロール再資源化協会ブース

Dec

12

Dec

「自己株式の取得状況及び取得終了に関するお知らせ」を発表

12月19日、「自己株式取得」についての実施状況とともに、取得終了の発表をいたしました。

	取得対象株式の種類	取得株式の総数	取得価額の総額	取得期間
10月30日発表内容	当社普通株式	300,000株（上限）	200百万円（上限）	平成20年10月31日～平成21年1月31日
12月9日発表（12月8日現在）	当社普通株式	229,000株	127,011,700円	平成20年10月31日～平成20年12月8日まで
12月19日発表（12月19日現在）		300,000株	167,994,500円	平成20年10月31日～平成20年12月19日
10月31日～12月19日までの取得累計	当社普通株式	300,000株	167,994,500円	

2009
1

Jan

「平成21年3月期　第3四半期決算短信」を発表

1月29日、東京証券取引所に平成21年3月期第3四半期の決算を報告し、対外発表いたしました。

（単位：百万円）

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益
平成21年3月期第3四半期	78,369	2,973	2,969	2,109
平成20年3月期第3四半期	75,591	4,392	4,226	2,277
（参考）平成20年3月期	99,407	5,046	4,735	2,589

2009
2

「平成21年3月期　第3四半期決算短信の一部訂正」を発表

2月4日、「平成21年3月期　第3四半期決算短信」（1月29日発表）の一部訂正を報告いたしました。（内容省略）

QCサークル活動全国大会開催

2月21日、恒例のQCサークル活動発表会全国大会を東京国際フォーラムで開催いたしました。

「平成21年4月1日付け　人事異動」を発表

2月25日、平成21年4月1日付け組織変更及び人事異動を対外発表いたしました。

＜変更内容＞

≪組織変更≫

・法務グループを経営管理本部の直下から総務部法務グループへ改組

・IRグループをIR室に改称

旧組織

- 経営管理本部
  - 総務部
    - 総務グループ
    - 秘書グループ
  - 法務グループ
  - IRグループ
  - 人事部
    - 人事グループ
  - 経理部
    - 経理グループ
  - 財務部
    - 財務グループ
  - 情報システム部
    - システム企画・開発グループ
    - システム運用グループ
    - セキュリティ管理グループ

新組織

- 経営管理本部
  - 総務部
    - 総務グループ
    - 秘書グループ
    - 法務グループ
  - IR室
  - 人事部
    - 人事グループ
  - 経理部
    - 経理グループ
  - 財務部
    - 財務グループ
  - 情報システム部
    - システム企画・開発グループ
    - システム運用グループ
    - セキュリティ管理グループ

Feb

2 Feb

≪執行役員人事≫

旧職	氏名	新職
代表取締役　副社長執行役員 社長補佐、経営管理本部長 コンプライアンス担当、企画推進本部管掌	豊口　健	代表取締役　副社長執行役員 社長補佐、経営管理本部長 企画推進本部長、コンプライアンス担当
取締役執行役員研究開発本部長 兼新事業推進室管掌	原田 正広	取締役執行役員研究開発本部長 兼鹿沼研究所長
執行役員研究開発本部鹿沼研究所長 兼日本リプロマシン工業㈱取締役社長	植松 武文	執行役員新事業推進室長兼開発部長 兼日本リプロマシン工業㈱取締役社長
執行役員総合技術本部長 兼QCサークル活動推進副本部長	松笠　隆	執行役員総合技術本部長兼環境品質保証部長 兼QCサークル活動推進副本部長

3 Mar

「個人投資家向け会社説明会」に参加

3月7日、大阪市のサンライズホールにおいて、大和インベスター・リレーションズ株式会社が主催する4社合同の「個人投資家向け会社説明会」に参画し、当社社長の井上がプレゼンテーションをいたしました。400名を超える多くの方にご来場いただきました。

3月31日　平成21年3月期　決算日

資本金の変更（平成21年3月31日現在）

資本金	10,128百万円
前回報告　（平成20年9月末）	10,128百万円 ＜増加なし＞
発行済株式総数	31,413,473株

今後の予定

・5月8日　平成21年3月期　決算発表予定
・6月下旬　第51回定時株主総会開催予定

会社情報（2009年3月31日現在）

会社概要

商　　号	株式会社JSP
所 在 地	本社　東京都千代田区丸の内三丁目4番2号
事業内容	発泡プラスチック、 その他合成樹脂製品の製造販売および輸出、 土木･建築工事の設計･請負および管理
設　　立	1962年（昭和37年）1月
資 本 金	101億28百万円
決 算 期	3月
従 業 員	649名（男538名･女111名） 連結2,262名（国内1,247名･海外1,015名）
事業所他	6営業所、11工場、2研究所
主要関連企業	国内12社、海外21社

＊＊＊＊＊ アンケートのお願い ＊＊＊＊＊

株主アンケートのお声を頂戴いたしたく、アンケートへのご協力をお願い申し上げます。なお、本アンケートを当社ディスクロージャーの充実以外の目的には利用しないことをお約束いたします。

Q1 当社株式にいつ頃投資されましたか

①１年以内　②２～３年前　③４～５年前
④５年以上前から　⑤株式公開時から

Q2 当社株式に投資された理由をお聞かせください（複数回答可）

①安定性　②将来性　③経営方針
④財務内容　⑤配当金　⑥株主優待
⑦製品サービス　⑧株価　⑨証券会社の薦め
⑩雑誌・ネット　⑪四季報　⑫その他

Q3 今後、当社に希望されている事は何ですか（複数回答可）

①株価の上昇　②配当金の増加　③株主優待の増加
④株式分割　⑤自社株取得　⑥ＩＲ活動の充実
⑦その他

Q4 JSP ニュースについて印象をお聞かせください

①分かりやすい　②見やすい　③分かりにくい
④その他

Q5 興味を持たれた内容はどれでしょうか（複数回答可）

①社長メッセージ　②特集　③新製品紹介
④株主優待制度／配当実績　⑤ JSPカレンダー
⑥表紙の写真

Q6 当社株式に対する今後の方針をお聞かせください

①当面保有　②買い増し　③売却　④その他

Q7 当社に対するご意見・ご要望をお聞かせください

※ 同封の回答用ハガキに、上記質問へのご回答をご記入いただき、平成21年10月末日迄に最寄の郵便ポストへご投函をお願い申し上げます。

「長園寺の枝垂れ桜」

東京都大田区南馬込

■撮影・文
清水　準一（写真家）

桜といえば、伝説的な三大桜の「薄墨桜」「神代桜」「滝桜」は別格として、日本各地に名物桜があり、春の象徴的な存在です。本紙にも二回掲載させて頂きましたが1995年の京都山城の地蔵院が最後ですから、14年ぶりです。あの地蔵院の枝垂れ桜は京都丸山公園の名物枝垂れと血縁関係の桜ですが、10余年ほど前に春先の重い雪で中央の大枝が折れ、桜守り日本一の佐野藤右衛門さんが修復なさったそうです。

桜を撮りだすと、最低10年はかかるといいます。奥村土牛先生の名作「醍醐寺の枝垂桜」は、四国から桜前線に沿っての「旬」との出会いの結果とお聞きしていますが、それほど微妙な出会いが求められるそうです。その上、薄墨桜に代表される名物桜は古木ですから、毎年「見事な開花」とはいかないようで、苦労されたカメラマンのお話では三年に一度と伺っています。

枝垂れ桜をメインのテーマにされておられる[※1]中島千波先生は、葉の落ちた冬にその枝振りをしっかり写生され、それから花のシーズンに通われるとご自身で語られています。また里桜などはその年の陽気で開花時の色が微妙に変化しますので、毎年いい花見ができるとはかぎりません。昔から「桜切る馬鹿、梅切らぬ馬鹿」といいますが、専門家の解説によると、桜の花芽は2年がかりで育成するので、枝を落とすと翌年は花なしとなるからだそうです。

桜といってもその種類は多く、「山と渓谷社」の『日本の樹木』に紹介されているだけでも70種類もあり、それでもまだ一部だそうです。いま一番見たい桜は京都市右京区京北井戸町の[※2]常照皇寺にある「九重桜」と「御車返しの桜」です。京都の写真家[※3]山本健三先生がここの桜を撮影した際に、桜守に「旬」をすぎているとアドバイスされたとご自身で話されましたが、国の天然記念物でもあり是非実行したいと願っています。

表紙写真の長園寺の枝垂れは樹も若く毎年楽しめます。しかし、ご近所とはいえ、今回ご紹介した桜を2時間ほど後に撮り直しにゆきましたが、刻一刻と花の色は変化するために趣がやや劣り、これにしました。

※1：中島千波
1945年、日本画家中島清之の3男として生れる。桜や牡丹などの花の作品や人物画、装丁画や挿絵など幅広く活動し、現代日本画を代表し活躍する作家の一人。

※2：常照皇寺
1362年（貞治元年）、光厳（こうごん）法皇がここで余生を送った。境内は京都府の史跡に指定され、桜の名木がある。

※3：山本健三
1925年－2007年。企業に勤務しながら写真倶楽部に入会し、1959年プロの写真家となる。京都を中心とする風景写真家として活躍。

ちなみに…　都内の桜スポット
都内では、明治通りの渋谷警察から恵比寿にかけての道路の両側に枝垂れ桜が植えられており、道行く人の目を楽しませています。

Network

本社・事業所一覧

本　社			☎
	〒100-0005	東京都千代田区丸の内3-4-2（新日石ビル）	03-6212-6300

営業所			
札幌	〒060-0003	札幌市中央区北3条西1-1（サンメモリアビル）	011-231-2681
仙台	〒984-0817	仙台市若林区堰場12-5（ソレアード舟丁）	022-262-3271
名古屋	〒460-0003	名古屋市中区錦3-4-6（桜通大津第一生命ビル）	052-962-3225
大阪	〒541-0048	大阪市中央区瓦町3-1-4（トーア紡ビル）	06-6202-3775
福岡	〒812-0013	福岡市博多区博多駅東1-12-17（五幸ビル）	092-411-6854

出張所			
広島	〒731-5133	広島市佐伯区旭園3-33（清水ビル）	082-943-6733

工　場			
北海道	〒067-0051	北海道江別市工栄町23-4	011-384-1621
鹿沼第一	〒322-8511	栃木県鹿沼市さつき町17	0289-76-2211
鹿沼第二	〒322-0014	栃木県鹿沼市さつき町5	0289-76-3271
鹿沼第三	〒322-0014	栃木県鹿沼市さつき町10-2	0289-76-5905
鹿沼第四	〒322-0026	栃木県鹿沼市茂呂2626-4	0289-60-3305
鹿沼第五	〒322-0014	栃木県鹿沼市さつき町6-1	0289-76-3211
鹿沼物流センター	〒322-0014	栃木県鹿沼市さつき町13-1	0289-76-2121
鹿島	〒314-0103	茨城県神栖市東深芝16-3	0299-93-4111
四日市第一	〒510-0881	三重県四日市市大字六呂見653-2	059-345-1220
四日市第二	〒510-0955	三重県四日市市北小松町字扇廣1600	059-328-2563
関西	〒679-4304	兵庫県たつの市新宮町下笹515	0791-77-0213
九州	〒861-0111	熊本県鹿本郡植木町宮原553	096-274-7101

研究所			
鹿沼	〒322-0014	栃木県鹿沼市さつき町10-3	0289-76-1600
四日市	〒510-0881	三重県四日市市大字六呂見653-2	059-345-1245

JSP

発行　株式会社 JSP
東京都千代田区丸の内三丁目4番2号新日石ビル
IR室　TEL.03-6212-6306　FAX.03-6212-6302
ホームページ　http://www.co-jsp.co.jp

PRINTED WITH SOY INK
R70 古紙配合率70%再生紙
この印刷物は70%古紙再生紙と
植物性大豆インキを使用しております。